

Title	ル・コルビュジェの二つのグリッド : トラセ・レギュラトゥールとモデュロール
Author(s)	伊集院, 敬行
Citation	デザイン理論. 2008, 52, p. 126-127
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53447
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ル・コルビュジエの二つのグリッド

トラセ・レギュラトゥールとモデュロール

伊集院敬行／島根大学

『エクリ』や『セミネール』においてラカンは、フロイトが「快感原則の彼岸」(1920)で述べた彼の孫の糸巻遊びに何度も言及する。これは、幼児が糸巻を母に見立て、糸巻きをベッドの向こうに放り投げ、引き寄せ^{いる}る遊びの中で糸巻きの運動に合わせて「ダー」と「オー」という幼児語を発したというものだ。

一見、この遊びで幼児は、糸巻きの在をダー、その不在をオーと命名したように見える。しかし、この説明はすぐに上手いかななくなる。なぜなら、「糸巻きがない状態」を単独で見ると、そこに「糸巻きがない」という認識は生じないからだ。糸巻きがない状態は、糸巻きがある状態と関連付けられて初めて生じるものである。

そこで、オーとダーの掛け声のペアによって、幼児が糸巻きを放り投げる前の手に糸巻きがある状態と、糸巻きを放り投げた後の手だけの状態が結び付くと考えれば、糸巻きを投擲した後の幼児の手には、糸巻きの形をした見えない穴が穿たれるだろう。つまり、「糸巻きがない」ということになる。

以上のように、糸巻きの在と不在に、オーとダーがそれぞれ一対一に対応すると考えると説明は成り立たないが、糸巻きの「投擲」と「引き寄せ」にオーとダーが対応した、すなわち記号と状況が二対二で対応したとするなら、糸巻きの不在は生まれ、その不在をオーと命名できる(註1)。

ラカンにとって、前者のように意味と記号が一対一に対応しているのが記号 *signe* であり、後者が *signifiant* である。ラカンがシニフィアの語を用いるのは、それを人間の言

語を動物も使う記号と区別するためであり、シニフィアを「あるシニフィアは、それとは別のシニフィアの代わりに主体を表象する」と定義した(註2)。

このシニフィアの定義を糸巻遊びに当てはめてみよう。オーとダーのシニフィアによって、糸巻きが消えて開いた穴に、「ない」ものとして浮かびあがる糸巻きは、幼児がこの遊びをすることで求めた母、すなわち母子が一体化している状態を意味している。その意味でここには幼児自身(主体)も書き込まれている。よって、「オーとダーは、糸巻の代わりに主体を表象する」となる。最初のシニフィア (S_1) である糸巻が消え、その代わりにオーとダーから始まるシニフィアの集合である言語 (S_2) が、主体を表象するようになる。

こうして言語が、「消す」という仕草によって幼児に書き込まれたことで、「糸巻きがないけどある」という矛盾を、幼児は解決することなく保持することに成功する。これがラカンの「去勢」理解である。ここからラカンは、最初のシニフィア (S_1) と主体との関係で、精神病の構造の説明を試みた。

このようなラカンの言語観を参考にし、今回のパネル発表で展示した作品を制作した(図1)。本作品は、最初の消えた糸巻き (S_1) が言語 (S_2) とどのような関係を持っているかを、コマを動かしながら絵を完成させるパズルの形を利用し、グリッドで表したもので、いわば言語の模型である。

この種の絵合わせのパズルは、一コマ (S_1) を内枠の外に移動させることでゲーム

が始まる。最初に動かし、枠内から消したコマは、それ以外のすべてのコマの周りを取り囲む枠の一部となり、他のコマが溢れ出るのを塞いでいる。

このとき消えたコマがあった跡には穴が生まれ、見えないけれど在るコマとなって、ゲームを成立させる。このことを表すために、作品の土台のグリッドの各正方形すべてに S_1 と彫りこんだ。これにより、どのように枠内のコマを動かしても、常に S_1 が欠けたものとして現れる。このグリッドを求心的グリッドとする。

もし、枠をなしている S_1 が枠から外れるなら、残りのコマはそこから溢れ、ゲームは成立せず、穴は広がり、もはや S_1 を表すことができなくなるだろう。このグリッドを遠心的グリッドとする。

求心的なグリッドは、不在のものを中心に構築されたシニフィアン集合としての言語と同じものだ。これは、オーケストラにおける指揮者と演奏者の関係に喩えられる。オーケストラのメンバーでありながら、指揮者は音としては録音されない。そしてオーケストラの中心にいて、すべての演奏家を支配している。そしてこの喩えを使うなら、遠心的なグリッドは、指揮者のいないバラバラのオーケストラとして理解できるだろう。

このようなグリッドの理解はル・コルビュジエの二つの様式にも当てはまる。ル・コルビュジエの場合、ピュリスム時代の建築はトラセ・レギュラトゥールに従い、グリッドに従って建築の各要素が配置されていたが、ブルータリズム時代の建築は拡散するグリッドであるモデュロールに基づく不定形な形態を持つものへと変化した。つまり、「原抑圧」と「父の名 (S_1) の排除」という語で、ル・コルビュジエの二つのグリッドの違いを説明できるのである。

註

(1) 石田浩之『負のラカン』誠信書房、1992年、参照。

(2) Pour nous, nous partirons de ce que le sigle S (A) articule, d'être d'abord un signifiant. Notre définition du signifiant (il n'y en a pas d'autre) est : un signifiant, c'est ce qui représente le sujet pour un autre signifiant ①. Ce signifiant sera donc le signifiant pour quoi tous les autres signifiants représentent le sujet ② : c'est dire que faute de ce signifiant, tous les autres ne représenteraient rien. Puisque rien n'est représenté que pour.

Or la batterie des signifiants, en tant qu'elle est, étant par là même complète, ce signifiant ne peut être qu'un trait qui se trace de son cercle sans pouvoir y être compté. Symbolisable par l'inhérence d'un (-1) à l'ensemble des signifiants.

Jacques Lacan, "Subversion du sujet et dialectique du désir dans l'inconscient freudien" (1960) in *Écrit*, 1966, p819.

この文中のシニフィアンの定義①「un signifiant représente le sujet pour un autre signifiant」の最初の un と autre を、 S_1 の 1 (un) と「大文字の他者 (Autre) としての言語」の autre として理解してしまうと、②を単純化した文「Tous les autres représentent le sujet pour ce signifiant。」とあべこべになってしまう。①の場合 un と autre は、「一方」と「他方」のような二つを区別するための語であることに注意したい。また本稿ではこのフレーズにおける pour を「の代わりに」と訳してみた。



図 1